

令和6年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
キックオフミーティング 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『地域循環共生のための森林アクションプランの作成と関係者協議』

活動団体の活動地域：愛媛県久万高原町

活動団体名：愛媛大学・(株)林業商社天空の森

中間支援主体名：久万高原町

活動団体と地域の紹介

○愛媛大学

社会共創学部 学部理念「地域とともに学び、地域とともに未来へ。」

社会共創学部 3つのポイント

1. 文理融合の多彩な教育の展開
2. 「実践」プログラムでチカラを育む
3. 学部独自の徹底的なキャリア教育

「愛媛大学環境方針」 カーボンニュートラル推進室の設置（令和5年）

2050年カーボン・ニュートラル、脱炭素社会の実現に貢献すべく、令和5年4月1日付で全学組織として「カーボンニュートラル推進室」を設置し、「SDGs 推進室」とも連携しながら、キャンパスのゼロカーボン化、地域のゼロカーボン化を推進

参考：

愛媛大学社会共創学部HP (<https://www.cri.ehime-u.ac.jp/about/idea/> <https://www.cri.ehime-u.ac.jp/about/point/>)
愛媛大学「環境報告書 2023」 (<https://shisetsu.office.ehime-u.ac.jp/contents/kankyokanri/wp-content/uploads/sites/9/2023/09/b33efc592e536c62c7417f0e612b4489.pdf>)

活動団体と地域の紹介

「林業商社 天空の森」の概要

【経営理念】森林・林業イノベーション

森林に関わる地域住民が森林による恩恵を隔たりなく享受出来るよう現状の改善を図ると共に、新たな価値観のもと新たなビジネスを構築する。

町支援業務(委託)

○森林管理部門

新たな森林管理システムに関する現地調査や森林所有者探索等を行う。

○人材育成部門

町が行う地域おこし協力隊を活用した林業就業者育成事業の管理・運営を行う。

○住宅相談窓口

プレカットや工務店からの部材調達の相談や住宅建築希望者の相談を受ける。

会社概要

1 体制

- 代表取締役 1名
- 取締役 2名
- 社員 1名
- 監査役 1名

2 場所

上浮穴郡久万高原町久万265-3

3 業務形態

第3セクター方式

4 出資状況

- 久万高原町 400万円
- 森林組合 10万円
- 会社(24社) 183万円
- 個人(7人) 25万円
- 出資数 33名 618万円

5 年間経費

約20,000千円

新ビジネス支援業務

○カーボンプライシング部門

クレジット認証に関する申請のサポートや現地調査や巡視などの業務を行う。

○木質バイオマス部門

木質バイオマスの集荷や共同販売、需要先の開拓等を行う

【検討課題】需要に見合った国産材流通体制の整備

活動団体と地域の紹介



令和4年2月14日 設立総会における社名看板除幕式の様子、出資者ほか関係者の皆様と

活動団体と地域の紹介



令和4年度から受託している
「地域おこし協力隊育成業務」の様子

活動団体と地域の紹介

○久万高原町の地域の紹介



活動団体と地域の紹介

○久万高原町の地域の紹介

- 西日本最高峰の「石鎚山」
- 日本三大カスルトの「四国カルスト」
- 日本一の清流「仁淀川」の上流「面河溪」
- 高原野菜トマト、ピーマン、清流米
- 四国88か所霊場

44番札所「大寶寺」 45番札所「岩屋寺」



- 大寶寺へ赴任、還俗した井部栄範が明治5(1872)年来、植林を推進したことに端を発し、お弟子方々（秋本氏、梶川氏、成川氏、岡氏、竹内氏）が志を継ぎ、林業地としての更なる発展を図る。
- 愛媛県市町村別素材生産量ランキング第1位、シェアにして40%強、20万m³弱の丸太を伐り出す林業地

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

町の林地残材を使ったエネルギー生産、森林利用に関するアクションプランが実行され、2030年には、脱炭素、生態系保全、防災対策のための費用対効果の高いサステナブルで先端的な森林経営が始まっている。木質バイオマスエネルギー事業、森林のグリーンインフラ事業、森林エコツアーなど森林を利用した観光業が始められている。2050年には、町内の広葉樹が増えるなどにより、森林生態系や景観の改善が進み、地域への観光・エコツアーがさらに広がっている。

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

森林アクションプランは、町の森林利用の方向性を示す内容であるため、町内関係者の合意が必要である。特に、プランの内容に実質性を与えるためには林業関係者がこのプロセスに参加することが欠かせない。このため、林業者や林家がなるべく参加する体制や仕組みが必要である。

ローカルSDGs事業として取り組む内容

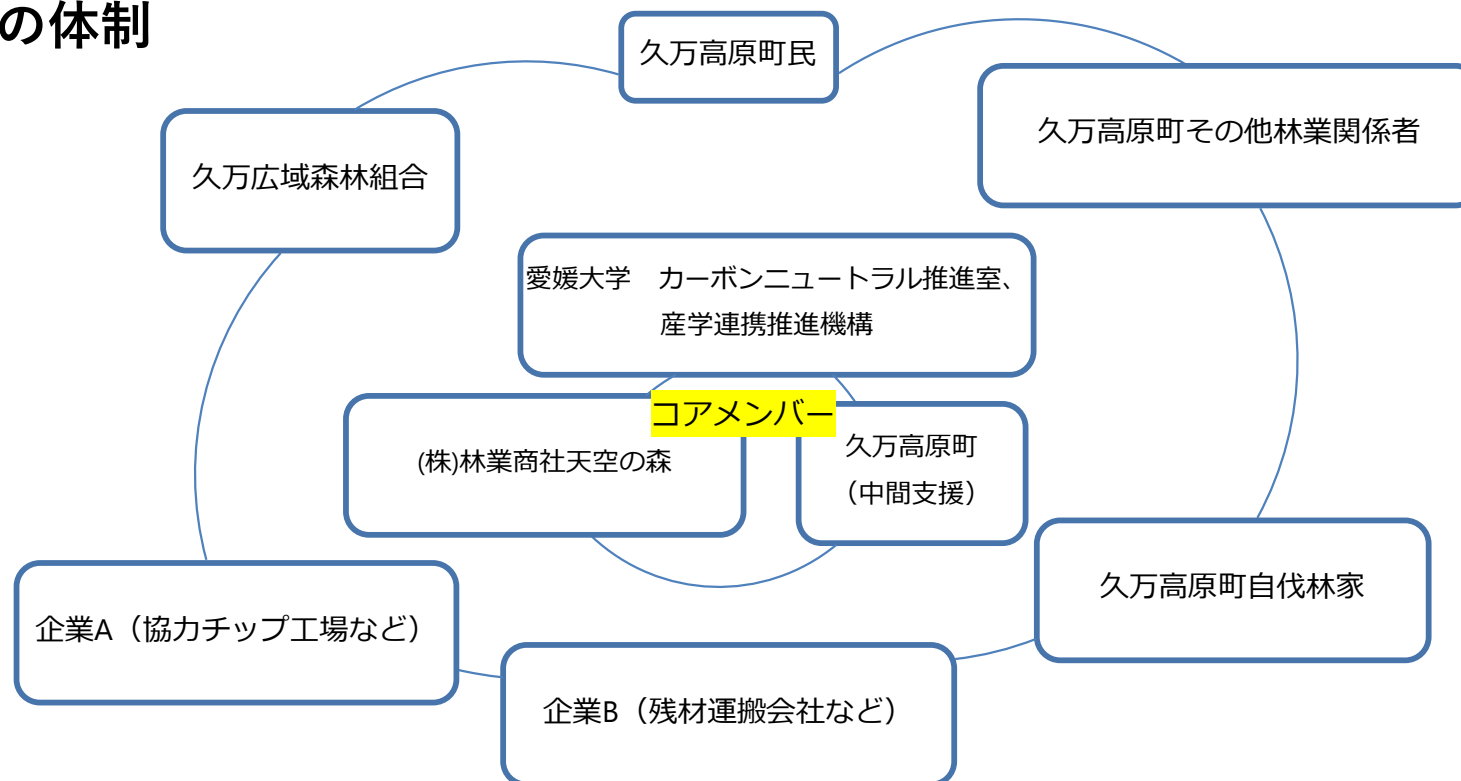
- ・林業商社天空の森と愛媛大学の2者で、久万高原町の木質バイオマス資源の安定的な供給や防災力の向上、生態系改善に繋がる森林ゾーニングに向けたアクションプランを作成する。
- ・木質バイオマスエネルギー事業、森林のグリーンインフラ事業、森林エコツアーなどの事業創生を目指す。

地域の現状

久万高原町は脱炭素による地域課題の解決のために、脱炭素先行地域への応募を目指しており、木質バイオマスエネルギーを含めた再生可能エネルギーの導入を検討している。木質バイオマスエネルギー事業では、林地残材を使うが、その安定供給と持続的な森林利用、さらには、町の新事業の創生や環境サステナビリティ向上のための長期的な森林アクションプランを検討している。

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



足りない資源 (ヒト、モノ、資金、情報、等) ※地域内、外も含む

森林をサステナブルに利用するための根拠となるような科学的情報分析
森林をサステナブルに利用することに対する林業者、地域住民の協力

3か年状態目標

2026年度末の状態目標

- ・地域のビジョンを描く（マンダラ作成）
- ・体裁を整える
- ・森林アクションプラン検討に向けた情報の整理・統合
- ・事業モデル提案、経済インパクト（仮）検討

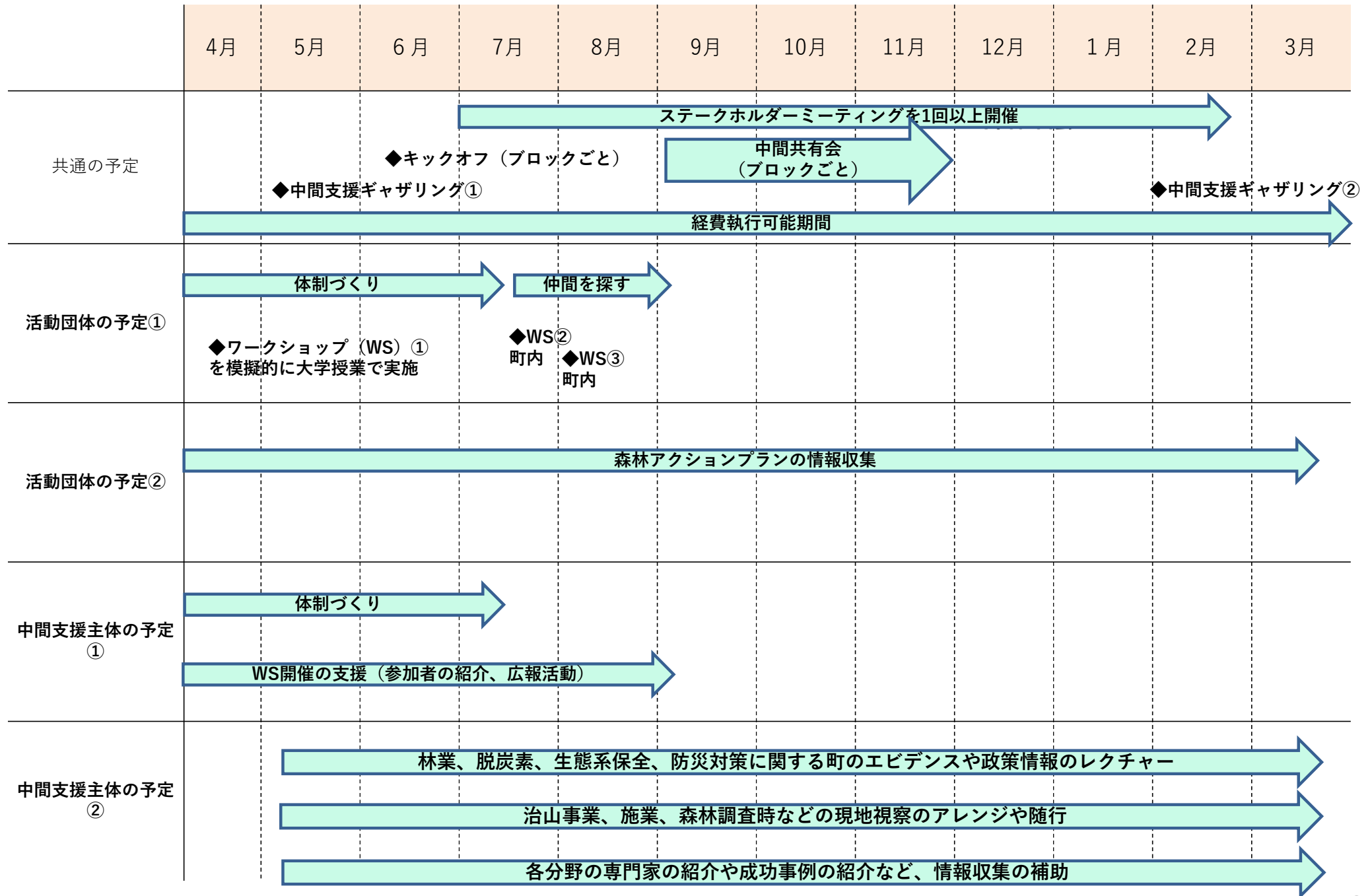
2025年度末の状態目標

- ・仲間を探す
- ・森林アクションプラン検討に向けた情報収集

2024年度末の状態目標

- ・ワークショップや協議会の開催
- ・地域課題や資源を発掘する
- ・地域の人のお話を聞き仲間をつくる
- ・森林アクションプランに向けた情報収集

活動計画



中間支援主体より

中間支援主体の紹介

前述の多大な丸太の伐出量を背景に、林地残材などの利用されていない木材資源の賦存量は大きいとされるが、現状、木質バイオマス発電等の具現化にはまだ至っておらず、各方面から鋭意検討を進めており、その一環としても本事業に参画している。

活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

ワークショップの開催に関して、会議室などを提供したり、参加者を紹介したり、参加者への広報活動を行ったりするなどの中間支援を予定している。

また、町が有する林業、脱炭素、生態系保全、防災対策に関するエビデンス情報や、林業政策、脱炭素政策、生態系保全政策、災害政策に関する最新情報を活動団体にレクチャーする予定である。さらに、現地の個別背景の理解のために、治山事業の実施地域や皆伐の現地視察での随行、（必要に応じて）森林資源の計測のアレンジや随行、個別知識や背景を知る人材の紹介や背景知識の収集の補助などの中間支援を予定している。

活動団体である愛媛大学においては、この事業を通じて森林林業の理解者が更に増えることを期待しており、(株)林業商社天空の森においては、第三セクターでもあることから、まちの林業の発展に資する新たな事業の創出にぜひ繋げていただきたく、中間支援主体としてできうる限りの支援を実施したい。